

第8号

発行 加古川市教育委員会
編集 加古川市文化財審議委員会
加古川市加古川町北在家
23の1 TEL (24) 1151

市民会館建設用地内の 埋蔵文化財発掘調査終る

『保存を必要とする遺構なし、

昨年の夏以来、新聞紙上をにぎわした、市役所前の市民会館建設用地内埋蔵文化財発掘調査は、このたびようやく終り、『保存を必要とする遺構はない』との結論がだされた。ここに本格的に市民会館の建設ができるようになった。

この発掘調査にあたっては、一部考古学研究者の間で、この地域には重要な祖先の遺産が遺されており、是非現状保存して欲しい、との申し出があり、かつ県教委の方からも同様の行政

の各氏に調査を依頼し、岡山理科大学、順正女子短期大学の学生、東洋大学付属姫路高校生その他市内の高校生等の協力を得て、昨年10月6日より発掘調査を開始した。

約10,000m²の土地を調査しようとするのであるから、全面的にこれを発掘することは、非常に多くの経費と期間を必要とするから、到底不可能なことなので、この用地内に4m巾のトレンチ(溝)を4本つくり、深さ約1mまで掘り下げ、各層にわたって土層を調べることにして調査を行なった。

この土地は、表土上に約30cmから50cmの盛土(土砂、グリ石等)がしてあり盛土のないところは池のようになって水が溜り、調査に入るまでにこれらの盛土の排除、溜り水の排水と非常な苦労を伴なった。

また、調査にはベルトコンベア等の機械力を利用して、調査の進行を早めるように努めた。

調査は耕土下の黄色土層にかかるからには、10cm毎に土層表面をジョレンでかいて調べ、土壁の面は移植ゴテ等で削って断面を調査し、最終的には土層表面ならびに断面を実測して図面を作成し、調査を終了した。

結果的には、黒色土層が全面的に分布しているが、この土層には土器片が極めてわずかに含まれている程度で、しかも摩滅が非常に激しく

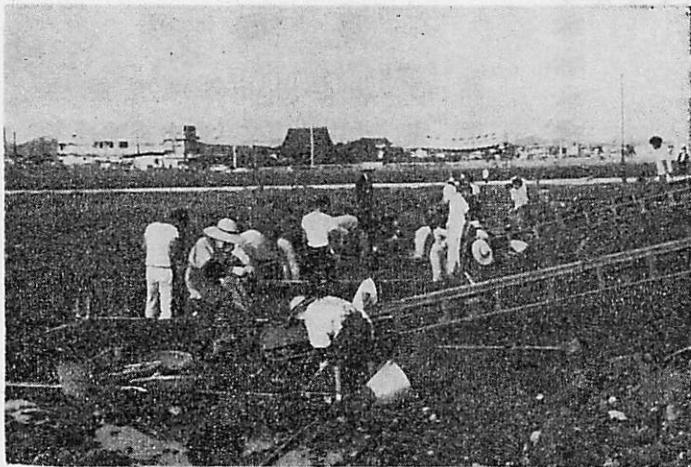


市民会館用地の発掘調査全景

的指導だったので、市としては、発掘調査をしたうえで、重要な遺構が発見されれば、その時点で充分考慮する、ということで発掘調査に入ったのである。

発掘調査にあたっては、

学術的調査顧問 鎌木義昌氏 岡山理科大学教授
兵庫県文化財専門委員会
調査担当者 上田哲也氏 東洋大学付属姫路高校
教諭
多淵敏樹氏 神戸大学工学部助教授



市民会館用地の発掘調査

一見して大水等で流されてきたものと判断できるものばかりである。今までには、このような黒色土層があれば、土器含包層と思われていたが、この土地にかぎっては、これは草やその根等の有機物が腐ってこのような土層になったらしい（これは岡山県のある低湿地の土地で草や雑木等が腐らずに残っている状態で発見され、丁度市民会館用地の状態と一緒にあることがわかった。）

また、一面に水が流れたような状態であって中には少し巾の広い川の流れの跡が発見されているので、このあたりは一面草原で、常に水が流れていたものと思われ、昔は加古川のはんらん源ではないかと推定される。

結論として、この調査の結果、この土地には人工的につくられた遺構は発見できなかった。だからこの土地については保存を必要としない。ということである。

野口・尾上地区にのこる

郷土の文化財踏査

加古川市教育委員会ならびに文化財審議委員会では、昨年10月以来第4回文化財教室を開講しているが、学習の一環として去る2月14日に野口・尾上地区にのこる郷土の文化財を踏査しました。

平素住みなれている私たちの郷土に、祖先の文化遺産としてのこされている文化財が、どこ

にどうした姿でのこされているのか、なかなかわかりにくいものです。

そこで、市教育委員会では、毎年1回文化財教室生を中心として、こうした郷土の文化財をたずねる現地踏査を実施してきました。

今年は、野口・尾上地区の文化財をたずねたわけです。

当日は風もなく、2月の最も寒い時にもかかわらず、大変おだやかで絶好の踏査日和でした。

朝9時、市役所前に参加者一同が勢揃いしいよいよ第1の目的地に向かって出発しました。お父さんと一緒に参加した幼稚園児、友達と共に参加した小学生等を含めて20数名が参加しました。

まず、野口町良野地区にのこる具平塚を横に見て、市内でただ1人ツヅレ織の技術を誇る坂元の畠さん宅をたずねました。何日間もかけてつくられた作品の数々を見せていただき、奈良・平安の昔から伝えられた手織りの実演を見ながら、遠く平安の昔に夢をはせ、優雅なツヅレの衣裳を身につけた都人を想像しながら、次の目的地へと歩みを進めました。

坂元には、播磨鑑等にものこる『和泉式部塔』といわれる完全な姿の宝篋印塔があります。

次いで野口城址についての講話を、教信寺において、文化財審議委員の長谷川委員より戦国時代における播磨の情勢、秀吉の中国攻めと三木城の戦い、それに関連しての野口城の戦いなど、非常に楽しく話を聞き、その後、長谷川委員の案内で、城址とされている野口町野口高橋宗次氏の屋敷付近を見学、播磨鑑等の古文書の記録を引用しての長谷川委員の説明で、当時の城としての状況がよくわかりました。

『城のツチ』という字名でのこる高橋氏の屋敷は、元2~3mの高台になっていたらしく、今でも周囲に『藪の下・構の谷』などの字名でのこる堀らしい低い位置の田があります。

この城址に接する野口神社の裏の森からは一面に古瓦が出土して、『野口廃寺址』として有名です。

ここから発見される瓦の古いものは、奈良時代前期のものとされているから、この廃寺は奈良時代前期に創建されたものと思われます。

野口城址、野口廃寺址等がのこる一帯は、旧国道に面しており、この道はまた昔からの街道とも思われる所以、この道筋には色々と文化財がのこされています。

野口城址の一かくと思われるところにある『馬のツメ塚』と呼ばれるところも、野口城攻防戦に何か関係があるのではなかろうか。

更に歩みを進めて、駅が池に沿って古大内に入ると『古大内廃寺』があります。ここには礎石ものこり、多数の古瓦も出土しているので、歴然として廃寺址であることがわかる。研究者の中には、国分寺系列の瓦が出土しているので、賀古駅家跡ではないかとも想定されています。

古大内の南には長砂があり、ここには『長砂構居址』がある。今の八幡社のところが二ノ丸で、その南西に広がる台地が本丸跡とされています。

次いで円長寺に入ると、ここには前期の前方後円墳（今から約1,550年～1,700年位以前）で知られる『聖陵山古墳』があります。この古墳の前方部は昔に土が取られて、今は聖陵山円長寺として寺院が建てられています。この古墳からは組合せ式石棺や銅鏡が発見されていて、今はこの寺院に保存されています。

一行は、この寺院で昼食をとらせていただいた。また、この円長寺付近一帯から弥生式土器片、土師器片等が多数出土し、長砂遺跡としてよく知られています。

午後は円長寺からまっすぐ南にさがって、浜の宮神社の横を通り、尾上神社へ向う。

尾上神社には、重要文化財の「尾上の鐘」が保存されています。当日は神社にお願いして、学級生の皆さんと共にこの鐘を拝観しました。

また、この神社には、天然記念物で名高い「尾上の松」があったが、惜しくも枯れ今は二代目の松が玉垣の中に清楚な姿を見せています。

「尾上の鐘」の拝観を終えて、最後の目的地である考古資料館へと歩みを進めました。



郷土の文化財踏査に向かう一行

考古資料館には、加古川バイパス工事中に発見され、発掘調査された東神吉遺跡や溝之口遺跡、平荘湖地内古墳群等から出土した遺物を展示しています。

正面入口に入ったところには、前期古墳出土の漢式鏡『唐草文帶三角縁二神二獸鏡』、『内行八花文鏡』等が展示され、奥には高さ76.8センチ、胴の径53.5センチの弥生時代後期（今から約1800年位以前）の壺棺が参観者の目を引く。

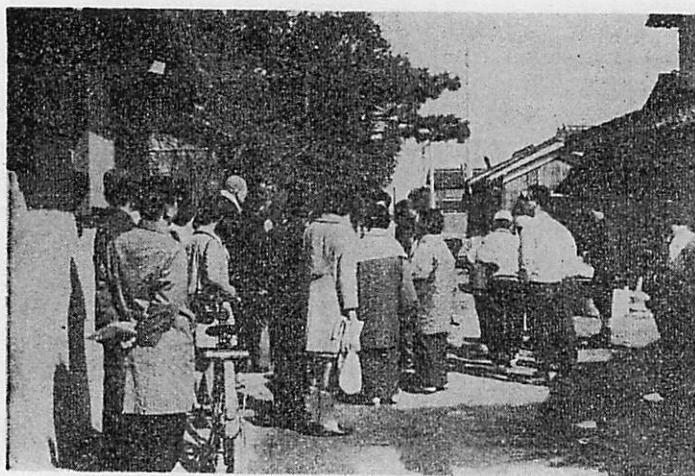
内部は入口を入って向かって右側（北）の陳列ケースには平荘湖地内古墳群や天坊山古墳などから発見された、古墳時代の遺物を展示しています。

反対側、南の方の陳列ケースには、弥生時代・縄文時代の遺物（岸遺跡、東神吉遺跡、溝之口遺跡等から出土）を展示しています。

これらの展示資料を熱心に参観した後、その場において解散しました。

この日の行程約10キロ、幼児から老人までの参加者が最後まで熱心に参加され、1日を楽しく過ごしていただき、大変喜ばれ有意義な現地踏査であったことを、主催者として嬉しく思います。

今後もこのような郷土の文化財をたずねる会を計画しており、その都度新聞紙上で案内いたしますから、ふるってご参加くださるようお知らせしておきます。



現地で説明を聞く学級生

民俗資料

蒐集について

お願い

時代の移り変わりと共に生活様式もかわってきて、毎日の生活に使用する日常生活用具、農具類等昔から使われていたこれらの文化財的な民俗資料が、廃棄されたり焼却されたりして、だんだん数少なくなっていることは、まことに淋しいことです。

加古川市では、今のところ博物館等の施設がありませんが、近い将来には、こうした民俗資料などを保存したり、展示をする施設の建設も計画しており、その時になって、これらの貴重な民俗資料が無くなっていては意義がありません。

加古川市教育委員会ならびに文化財審議委員会では、皆様方のご家庭で、祖先の代から使われていた道具類（例えば、脱穀機・農業用のスキ・クワ等の農業用の道具や、ハタ織機・綿くり機・炊事用の道具等の日常生活用具類）で、もうお使いにならないものがありましたら、こわしたり、焼いたりせずに、市教育委員会へご寄贈いただきたく存じます。

市教育委員会では、ご寄贈いただいた方のお名前も明記して保存し、一般に公開して、学習

の一助にもいたしたいと考えております。

なお、保存場所等の関係もあり、早急にこちらへ引き取ることができないものもあるうかと思いますので、皆様のお家のどこかにしばらく保管していただき、目録だけでも調整しておきたいと思います。

また、古い文書についても、今年は積極的に調査させていただき、記録に残したく存じますので、ご家庭で保存されているこれらの古文書についても、是非お知らせいただきたく存じます。

これらの調査や資料の蒐集については、市の文化財審議委員の方々にご指導をお願いしておりますので、これらの委員の方にお話いただきましても結構です。

なお、委員は下記の方々です。

氏 名	住 所
菅野 忠男	加古川町備後
大村 俊二	久 溝之口新宿
永井 宏	東神吉町神吉
本岡 龍式	八幡町下村
前田 秀雄	西神吉町辻
長谷川 慶明	野口町野口
酒見 真暁	加古川町平野
黒崎 基一	加東郡滝野町上滝野
水野 俊二	加古川町南本町3丁目
大浜 忠一	尾上町池田

文化財を護りましょう



皆さんと共に、文化財を大事にしましょう。